



Ⅱ 保健衛生編

- 1 精神保健
- 2 難病対策
- 3 感染症予防
- 4 保健師活動
- 5 夜間急病センター
- 6 実習および研修の受け入れ



1 精神保健

多様化した現代社会では、ストレスや高齢化などによって精神的な健康を損なう場面も多いことから、精神保健に対する正しい知識の普及をはじめ、相談や訪問等の個別支援、社会復帰への支援のほか、自殺予防対策などの事業および関連団体の支援を行っている。

また、保健・医療・福祉等に関する地域社会のニーズに応じ、精神保健福祉サービスの提供に努めている。

(1) 精神保健福祉相談事業

精神保健に関するあらゆる相談に対し、問題解決のための援助を行うことで、患者および家族が疾病を理解し、円滑な社会生活を営むことができることを目的に実施している。

① 心の健康相談事業

心の健康について不安のある本人やその家族に対し、月2回精神科医がこれからの対応や関わりなどについて個別に助言している。

表1 心の健康相談

区 分	実施回数	相談件数
平成24年度	1	1
平成25年度	9	9
平成26年度	4	4

② 精神保健福祉相談

保健師や精神保健福祉士が、こころの健康、こころの病気に関する相談等および精神障がい者の福祉に関する相談等を行っている。

表2 精神保健相談状況

区 分		社会復帰		老人精神		アルコール		そ の 他		合 計	
		来所	電話	来所	電話	来所	電話	来所	電話	来 所	電 話
相 談	平成24年度	273	297	9	7	5	10	206	546	493	860
	平成25年度	249	480	24	60	8	13	207	445	488	998
	平成26年度	517	414	29	157	9	25	179	424	734	1,020

③ 家庭訪問については、31ページ参照

(2) 家族支援

① 家族会支援

精神障がい者家族会の支援を通じて、精神障がい者が地域の中で自主的に生活できるよう支援する。

② 精神保健家族セミナー

精神障がい者を抱える家族に対して、病気と障がいに対する正しい知識・情報を提供し、家族機能の回復と強化を図っている。また、グループワークを通じて、お互いの悩みを知るとともに、家族同士が支え合い、交流しあえる場となっている。

表 3 精神保健家族セミナー実施状況

区 分	開催回数	参加者数	
		実数	延数
平成24年度	4	-	57
平成25年度	4	-	93
平成26年度	4	-	64

(3) 普及啓発事業

① 健康教育については、30ページ参照

(4) 自殺予防対策事業

自殺予防に関する情報の提供や知識の普及啓発の対策を実施し、うつ病と自殺予防に対する理解を深めるとともに、相談支援の充実に努めることにより、自殺者の減少を図っている。

(平成26年度)

① 関係機関との連携・情報交換

- ・函館市自殺予防対策連絡会議 年1回開催
- ・函館市自殺予防対策実務者会議 年2回開催

② 普及啓発事業

- ・自殺予防啓発カード、カレンダー、クリアファイルの作成・配布
- ・自殺予防パネル展の実施
- ・自殺予防講演会 1回目 平成26年11月15日実施。57名参加
2回目 平成27年3月13日実施。132名参加
- ・FMいるかラジオCM 函館いのちのホットラインのPR

③ 相談支援事業

- ・「函館いのちのホットライン」 開設日103日 相談件数162件
カウンセリングや傾聴などの知識と経験を有する相談員による電話相談を、週2回夜間に実施している。
- ・随時相談（自殺関連） 来所5件 電話20件
保健師、精神保健福祉士による相談業務を実施している。
- ・暮らしとこころの相談会（弁護士会と共催） 面接5件 電話1件

④ 人材育成事業

自殺を企図する方の身近な方々に、自殺の様々なサインをつかみ・受け止め、専門機関へつなぐ知識・技術を習得するためのゲートキーパー研修会や、自死遺族の会や函館いのちのホットライン従事者のスキルアップの研修会を開催。

- ・自殺予防ゲートキーパー研修 35名修了(道主催)
- ・自死遺族のつどい従事者研修 年1回開催
参加者 道南いのちとこころを考える市民ネット・あかり
- ・函館いのちのホットライン従事者研修 年2回開催
参加者 ホットライン従事者

⑤ 自殺未遂者対策

- ・自殺予防対策研修会(医療従事者、地域支援者向け)
(平成27年1月16日) 69名参加
- ・自殺未遂者向けリーフレットの作成、配布

⑥ その他

- ・うつ病家族のつどい 7月講演会後に開催 2家族 2人参加
3月開催 5家族 5人参加

(5) 依存症対策事業

依存症者や家族が身近な地域で支援を受けながら回復することができるよう依存症に関する普及啓発を行い、地域における依存症支援の理解を促進するとともに地域の支援体制を構築する。

(平成26年度)

① 普及啓発事業

- ・依存症フォーラム(平成26年8月9日) 122名参加

② その他

- ・依存症を考えるつどい 毎月第3土曜日 13:30~15:30

2 難病対策

- (1) 特定医療費（指定難病）支給制度，特定疾患・先天性血液凝固因子障害等治療研究事業
 平成27年1月から施行された難病の患者に対する医療等に関する法律に基づき，国または北海道の指定する難病に罹患しており，その病状の程度が認定基準に該当するとき，または高額な医療の継続が必要と認められる場合に，患者の負担軽減を図るため医療費等の自己負担分の全額または一部を公費負担している。実施主体は北海道で，保健所が申請手続きの窓口となっている。

表1-1 特定医療費（指定難病）受給者証交付状況（平成26年度末現在）

疾 病 名 (法施行前の特定疾病名)	受給者総数			内 訳					
				新規認定者			継 続 者		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女
ベ ー チ エ ッ ト 病	59	21	38	2	1	1	57	20	37
多 発 性 硬 化 症	43	11	32	0	0	0	43	11	32
重 症 筋 無 力 症	48	14	34	0	0	0	48	14	34
全 身 性 エ リ テ マ ト ー デ ス	137	18	119	0	0	0	137	18	119
再 生 不 良 性 貧 血	11	5	6	0	0	0	11	5	6
サ ル コ イ ド ー シ ス	61	13	48	2	0	2	59	13	46
筋 萎 縮 性 側 索 硬 化 症	6	3	3	1	0	1	5	3	2
強 皮 症，皮 膚 筋 炎 お よ び 多 発 性 筋 炎	99	14	85	0	0	0	99	14	85
特 発 性 血 小 板 減 少 性 紫 斑 病	71	22	49	0	0	0	71	22	49
結 節 性 動 脈 周 囲 炎	8	3	5	0	0	0	8	3	5
潰 瘍 性 大 腸 炎	282	147	135	10	6	4	272	141	131
大 動 脈 炎 症 候 群	14	2	12	0	0	0	14	2	12
ビ ュ ル ガ ー 病	39	37	2	0	0	0	39	37	2
天 疱 瘡	12	6	6	1	1	0	11	5	6
脊 髄 小 脳 変 性 症	69	32	37	2	2	0	67	30	37
ク ロ ー ン 病	93	57	36	3	2	1	90	55	35
悪 性 関 節 リ ウ マ チ	4	1	3	0	0	0	4	1	3
パ ー キ ン ソ ン 病 関 連 疾 患	299	108	191	9	2	7	290	106	184
ア ミ ロ イ ド ー シ ス	2	0	2	0	0	0	2	0	2
後 縦 靱 帯 骨 化 症	108	76	32	5	4	1	103	72	31
ハ ン チ ン ト ン 病	2	1	1	0	0	0	2	1	1
モ ヤ モ ヤ 病 (ウ イ リ ス 動 脈 輪 閉 塞 症)	37	10	27	0	0	0	37	10	27
ウ ェ ゲ ナ ー 肉 芽 腫 症	1	0	1	0	0	0	1	0	1
特 発 性 拡 張 型 (う っ 血 型) 心 筋 症	56	46	10	0	0	0	56	46	10
多 系 統 萎 縮 症	19	6	13	0	0	0	19	6	13
膿 疱 性 乾 癬	3	0	3	0	0	0	3	0	3
広 範 脊 柱 管 狭 窄 症	2	2	0	0	0	0	2	2	0
原 発 性 胆 汁 性 肝 硬 変	56	4	52	0	0	0	56	4	52
特 発 性 大 腿 骨 頭 壊 死 症	45	26	19	2	1	1	43	25	18
混 合 性 結 合 組 織 病	17	4	13	0	0	0	17	4	13
原 発 性 免 疫 不 全 症 候 群	4	3	1	0	0	0	4	3	1
特 発 性 間 質 性 肺 炎	5	3	2	0	0	0	5	3	2
網 膜 色 素 変 性 症	40	21	19	2	1	1	38	20	18
プ リ オ ン 病	2	1	1	0	0	0	2	1	1
肺 動 脈 性 肺 高 血 圧 症	7	0	7	0	0	0	7	0	7
神 経 線 維 腫 症	7	1	6	0	0	0	7	1	6
亜 急 性 硬 化 性 全 脳 炎	1	0	1	0	0	0	1	0	1
バ ッ ト ・ キ ア リ (Budd-Chiari) 症 候 群	1	0	1	0	0	0	1	0	1
慢 性 血 栓 塞 栓 性 肺 高 血 圧 症	4	2	2	0	0	0	4	2	2
球 脊 髄 性 筋 萎 縮 症	2	2	0	0	0	0	2	2	0
慢 性 炎 症 性 脱 随 性 多 発 神 経 炎	9	4	5	0	0	0	9	4	5
肥 大 型 心 筋 症	16	12	4	0	0	0	16	12	4
リ ン パ 脈 管 筋 腫 症	1	0	1	0	0	0	1	0	1
黄 色 靱 帯 骨 化 症	9	8	1	0	0	0	9	8	1
間 脳 下 垂 体 機 能 障 害	50	25	25	2	2	0	48	23	25
計	1,861	771	1,090	41	22	19	1,820	749	1,071

表 1 - 2 特定疾患治療研究事業給付状況

(平成 26 年度末現在)

疾 患 名		受給者総数			内 訳					
					新規認定者			継 続 者		
		計	男	女	計	男	女	計	男	女
国指定	ス モ ン	7	2	5	0	0	0	7	2	5
	重症急性膵炎	2	2	0	2	2	0	0	0	0
道指定	突発性難聴	33	7	26	0	0	0	33	7	26
	溶血性貧血	8	0	8	0	0	0	8	0	8
	ステロイドホルモン産生異常症	5	1	4	0	0	0	5	1	4
	シェーグレン症候群	377	18	359	2	0	2	375	18	357
	難治性の肝炎 (劇症肝炎及びウイルス性B・C型肝炎を除く)	40	6	34	1	0	1	39	6	33
	後縦靭帯骨化症(特例)	1	1	0	0	0	0	1	1	0
	特発性間質性肺炎(特例)	6	3	3	0	0	0	6	3	3
	特発性拡張型心筋症(特例)	1	1	0	0	0	0	1	1	0
計		480	41	439	5	2	3	475	39	436

表 2 先天性血液凝固因子障害等治療研究事業給付状況

(平成 26 年度末現在)

疾 患 名		受給者総数			内 訳					
					新規認定者			継 続 者		
		計	男	女	計	男	女	計	男	女
先天性血液凝固因子障害		7	7	0	1	1	0	6	6	0

(2) 在宅難病患者等酸素濃縮器使用助成事業

本事業は在宅酸素療法および人工呼吸療法を必要とする呼吸器機能障がい者に対し、酸素濃縮器および人工呼吸器の使用に係る電気料金の一部を助成する。実施主体は北海道で、保健所が申請手続きの窓口となっている。

表 3 在宅難病患者等酸素濃縮器使用助成認定状況

区 分	新規認定者	継 続 者
平成 24 年度	54	138
平成 25 年度	67	141
平成 26 年度	52	130

(3) 難病患者在宅療養支援計画策定・評価事業

患者等の療養上の不安解消を図るとともに、きめ細かな支援が必要な要支援難病患者に対し、適切な在宅支援が行えるよう保健、医療、福祉等関係者から成る「函館市難病地域ケアシステム推進連絡会議」を保健所に設置し、地域ケアシステムの構築を図るとともに、「難病事例検討会」を開催し、対象患者別の在宅療養支援計画の策定・評価を行い、各種サービスの適切な提供に資することを目的に実施している。

- ① 函館市難病地域ケアシステム推進連絡会議(平成 26 年度 1 回開催)
- ② 難病事例検討会(平成 26 年度 1 回開催)

(4) 難病患者訪問相談事業

難病患者やその家族が抱える日常生活上および療養上の不安を緩和するため、患者のプライバシーに配慮しつつ、個別の相談、指導、助言等を行っている。

表 4 難病患者訪問相談状況

区 分	実 人 員	延 人 員
平成 2 4 年度	59	189
平成 2 5 年度	49	102
平成 2 6 年度	47	164

(5) 難病患者訪問指導（診療）事業

要支援難病患者やその家族が抱える日常生活上および療養上の不安を緩和するため、専門医、保健師、理学療法士等で構成する訪問指導（診療）班を派遣し、在宅療養に必要な医学的指導等を行っている。

表 5 難病患者訪問指導（診療）状況

区 分	実 人 員	延 人 員
平成 2 4 年度	4	4
平成 2 5 年度	2	2
平成 2 6 年度	1	1

(6) 難病医療相談事業

難病患者等の医療上の不安を緩和するため、難病に関する専門の医師、保健師、社会福祉士等による医療相談班を編成し、患者等の利用のし易さやプライバシーの保護に配慮した会場を設置して相談会を開催している。

表 6 難病医療相談会開催状況 (平成 2 6 年度)

区 分	テ ー マ	参加者数
第 1 回	一人で悩まないで～難病患者さんを支える制度について～	32

(7) 難病患者サポート教室

療養に必要な知識や交流を深める場を提供することにより、難病患者やその家族の療養上の孤立感を緩和し、QOLの向上を図ることを目的に実施している。

表 7 難病患者サポート教室開催状況

区 分	開催回数	延参加人員 (家族含)
平成 2 4 年度	3	54
平成 2 5 年度	3	46
平成 2 6 年度	3	32

(8) ウイルス性肝炎進行防止対策医療給付状況（肝炎治療特別促進事業）

B型ウイルス性肝炎およびC型ウイルス性肝炎は、インターフェロンや核酸アナログ製剤による治療が奏効すれば、その後の肝硬変、肝がんといった重篤な病態を防ぐことが可能な疾患であることから、これらの治療に係る医療費等の自己負担分の全額または一部を公費負担している。実施主体は北海道で、保健所が申請手続きの窓口となっている。

表8 ウイルス性肝炎進行防止対策医療給付状況

区 分	受 給 者 総 数
平成24年度	235
平成25年度	262
平成26年度	296

(9) ウイルス性肝炎進行防止対策・橋本病重症患者対策医療給付事業

ウイルス性慢性肝炎の肝硬変への進行や肝がんの発生を防止し、患者の効果的な治療の確保を図るとともに、重症である橋本病患者の治療を支援するため医療費等の自己負担分の全額または一部を公費負担している。実施主体は北海道で、保健所が申請手続きの窓口となっている。

表9 ウイルス性肝炎進行防止対策・橋本病重症患者対策医療給付状況（平成26年度末現在）

疾 患 名	受 給 者 総 数			内 訳					
				新 規 認 定 者			継 続 者		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女
ウ イ ル ス 性 肝 炎	176	94	82	38	17	21	138	77	61
橋 本 病	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3 感染症予防

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、医師・獣医師、指定届出機関からの発生届出を受け、感染症のまん延防止のために迅速かつ的確に対応するほか、感染症発生動向を把握し、公表することにより感染症の発生予防に努めている。

また、予防接種法に基づく定期予防接種として、高齢者のインフルエンザおよび肺炎球菌感染症の予防接種を実施している。

(1) 感染症発生届出数

表 1 全数届出感染症患者数

(各年 1 2 月末現在)

区 分	一 類 感染症	二 類 感染症 (結核を 除く)	三 類	四 類		五 類 感 染 症														
			感 染 症	感 染 症		腸 管 出 血 性 大 腸 菌	E 型 肝 炎	エ キ ノ コ ク ス 症	レ ジ オ ネ ラ 症	梅 毒	ク ロ イ ツ フ ェ ル ト ヤ コ ブ 病	後 天 性 免 疫 不 全 症 候 群	ア メ ー バ 赤 痢	破 傷 風	風 し ん	ウ イ ル ス 性 肝 炎 (E 型, A 型 除 く)	急 性 脳 炎	麻 し ん	侵 襲 性 イ ン フ ル エ ン ザ 菌 感 染 症	侵 襲 性 肺 炎 球 菌 感 染 症
平成 2 4 年	-	-	11	1	1	4	-	-	1	1	1	6	-	-	-	-	-	-	-	-
平成 2 5 年	-	-	5	5	1	4	-	1	1	2	-	28	4	1	1	2	2	-	-	
平成 2 6 年	-	-	2	5	3	6	1	1	-	1	1	-	-	1	-	1	3	1	-	

※届出数には市外在住者を含む。 ※結核は別頁に掲載

表 2 定点届出感染症患者数

(平成 2 6 年 1 2 月末現在)

定 点	症 名	届出数	定 点	症 名	届出数
内科・小児科	インフルエンザ	2,966	産婦人科 泌尿器科 基 幹	性器クラミジア感染症	105
小 児 科	RSウイルス感染症	167		性器ヘルペスウイルス感染症	11
	咽頭結膜熱	241		尖形コンジローマ	24
	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	245		淋菌感染症	34
	感染性胃腸炎	1,296		細菌性髄膜炎	2
	水痘	231		無菌性髄膜炎	6
	手足口病	20		マイコプラズマ肺炎	5
	伝染性紅斑	26		クラミジア肺炎	0
	突発性発疹	71		感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0
	百日咳	0		メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	99
	ヘルパンギーナ	124		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0
流行性耳下腺炎	12	薬剤耐性緑膿菌感染症		2	
眼 科	急性出血性結膜炎	0		薬剤耐性アシネトバクター	0
	流行性角結膜炎	147			

(注) 内科定点 4 ヵ所、小児科定点 7 ヵ所、眼科定点 2 ヵ所、産婦人科・泌尿器科定点各 1 ヵ所、基幹定点 1 ヵ所

(2) HIV（エイズウイルス）抗体検査

HIV（エイズウイルス）感染者を早期に発見し、適切な治療に結びつけることにより、後天性免疫不全症候群（エイズ）の発症または重症化を予防することを目的として検査を実施している。

表3 HIV抗体検査受検状況

区 分	HIV抗体検査件数		
	男	女	総数
平成24年度	81	70	151
平成25年度	102	89	191
平成26年度	111	76	187

(3) 肝炎ウイルス検診

B型肝炎、C型肝炎ウイルスの持続感染状態にあつて、自分自身が感染していることを自覚していない人を早期に発見し、適切な治療に結びつけることにより、重症化を予防することを目的として、検診を実施している。

従来の感染症法に基づく小学校3年生以上の全市民対象のウイルス性肝炎検査に加え、更に平成20年度から健康増進法の規定に基づき40歳を対象とした節目健診を実施し、平成23年度からは個別勧奨事業（40歳から60歳までの5歳刻みの者に個別に通知し、受診の勧奨を行う。）も実施している。

表4 肝炎ウイルス検診受診状況

区 分		HBs抗原検査 (B型肝炎)			HCV抗体検査 (C型肝炎)		
		男	女	総数	男	女	総数
平成24年度	ウイルス性肝炎検査 (小学3年生以上)	100	178	278	98	177	275
	節目健診 (40才)	18	24	42	18	24	42
	個別勧奨 (40才～60才)	386	1,015	1,401	387	1,015	1,402
平成25年度	ウイルス性肝炎検査 (小学3年生以上)	121	168	289	121	167	288
	節目健診 (40才)	19	22	41	19	22	41
	個別勧奨 (40才～60才)	356	889	1,245	356	893	1,249
平成26年度	ウイルス性肝炎検査 (小学3年生以上)	194	274	468	192	272	464
	節目健診 (40才)	42	55	97	42	55	97
	個別勧奨 (40才～60才)	384	829	1,213	385	831	1,216

(4) 風しん抗体検査

平成26年度から妊婦等に対する風しんの感染予防を図り、先天性風しん症候群の発生を未然に防ぐことを目的に、抗体検査を実施している。

表5 風しん抗体検査受検状況

区 分	風しん抗体検査件数		
	男	女	総数
平成26年度	53	70	123

(5) エキノコックス症検診

キツネなどを媒介として感染するエキノコックス症の予防と患者の早期発見、早期治療のため住民に対する検診を実施している。

表6 検診受診状況および患者数

区 分	受診者数	受 診 結 果		確認患者
		陽 性	疑 陽 性	
平成24年度	163	-	2	-
平成25年度	104	-	-	-
平成26年度	70	-	-	-

(6) 結核対策

① 定期の健康診断

ア 学校・事業所・施設での定期健康診断

労働安全衛生法や学校保健安全法に基づき、各事業所や各学校での定期健康診断として実施している。

表7 学校・事業所・施設での定期健康診断 (平成26年度)

区 分	間 接 撮 影	直 接 撮 影	かくだん 喀痰検査	患者発見数 (疑い含む)
事 業 所	4,312	10,566	50	1
学 校	3,645	517	0	1
施 設	1,030	1,416	1	0
計	8,987	12,499	51	2

イ 市が実施する定期結核健康診断

総合保健センターや町会館等で行っている特定健康診査時に、65才以上を対象とした結核健康診断を実施している。

表 8 定期結核健康診断

区 分	実 施 回 数	受診者実人員	発見患者数
平成24年度	229	6,468	-
平成25年度	233	6,407	-
平成26年度	234	6,625	-

② 接触者健康診断

結核患者の同居家族や病院，事業所，学校などで結核患者と接触があり，結核にかかっていると疑うに足りる者を対象として接触者健診を実施している。

表 9 接触者健診受診状況

(各年12月末現在)

区 分	患 者 家 族				そ の 他			
	受診者数	健 診 結 果			受診者数	健 診 結 果		
		異常なし	要 観 察	要 医 療		異常なし	要 観 察	要 医 療
平成24年	73	38	34	1	74	26	48	0
平成25年	59	36	18	5[3]	95	58	28	9[7]
平成26年	46	20	26	0	113	23	89	1[1]

(注) []内は潜在性結核感染症患者数(再掲)

③ 結核患者の登録管理

表 10 年齢階級別結核登録患者数

(各年12月末現在)

区 分	総 数	0～4歳	5～9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳～
平成24年	81 [42]	-	-	-	-	1	2 [1]	5 [2]	5 [3]	9 [5]	59 [31]
平成25年	83 [42]	-	-	-	1 [1]	1 [2]	4 [2]	1	8 [3]	16 [9]	52 [25]
平成26年	84 [35]	-	-	-	1	1	6 [2]	2 [1]	6 [1]	21 [10]	47 [21]

(注) 潜在性結核感染症患者を除く。[]内は新規登録者

表 1 1 結核登録患者活動性分類別受療状況

(平成 2 6 年 1 2 月末現在)

区 分	登 録 患者数	活 動 性 肺 結 核					活 動 性 肺 結 核	不 活 動 性	不 明	潜 在 性 結 核 感 染 症 (別 掲)
		登 録 時 喀 痰 塗 抹 陽 性 ・ 初 回 治 療	登 録 時 喀 痰 塗 抹 陽 性 ・ 再 治 療	そ の 他 結 核 性 菌 陰 性	菌 陰 性 ・ 不 明	計				
入 院	2	2	0	0	0	2	0	0	0	0
通 院	20	9	0	4	4	17	3	0	0	2
医 療 な し	62	0	0	0	0	0	0	60	2	15
不 明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	84	11	0	4	4	19	3	60	2	17

表 1 2 結核登録者数の推移

(各年 1 2 月末現在)

区 分	本 年 中 登 録 者			年 間 登 録 除 外					年 末 現 在 登 録 者
	新 規	転 入	計	死 亡	観 察 不 要	転 出	そ の 他	計	
平成 2 4 年	48[6]	2[1]	50[7]	11[1]	29	2[1]	1	43[2]	89[8]
平成 2 5 年	55[13]	2[1]	57[14]	15	23[1]	2[1]	3	43[2]	103[20]
平成 2 6 年	38[3]	4[1]	42[4]	15[1]	23[3]	5[3]	1	44[7]	101[17]

(注) [] は潜在性結核感染症登録者の再掲

④ 家庭訪問指導

平成 1 7 年度から函館市地域 D O T S (直接服薬確認療法) 事業を開始し、結核患者に対する抗結核薬の確実な服用を家庭訪問等により支援している。

平成 2 1 年度から、D O T S 事業に係る支援者を拡大し、訪問看護事業所に委託することにより、きめ細やかな服薬支援を行っている。

表 1 3 家庭訪問指導件数

区 分	実 数	延 数		(別掲) 委託機関実施 DOTS件数	
		(再掲) DOTS件数	(再掲) DOTS件数		
平成 2 4 年度	74	11	198	45	52
平成 2 5 年度	64	10	177	40	13
平成 2 6 年度	49	9	154	52	22

⑤ 精密検査

結核登録票に登録されている者で、結核の予防または医療上必要があると認めるときに精密検査を実施している。

表 1 4 精密検査状況 (各年 1 2 月末現在)

区 分	精 密 検 査			
	受診者数	検 査 結 果		
		異常なし	要 観 察	要 医 療
平成 2 4 年	60	30	30	-
平成 2 5 年	76	24	52	-
平成 2 6 年	86	22	64	-

⑥ 医療

感染症法に基づく入院勧告および入院の期間の延長ならびに結核患者の医療費公費負担申請について、感染症の診査に関する協議会で診査し、適正な医療の普及促進に努めている。

表 1 5 結核医療費公費負担申請および承認状況(平成 2 6 年 1 2 月末現在)

区 分		計
法第 3 7 条	申 請	56
	合 格	56
	承 認	56
法第 3 7 条の 2	申 請	65
	合 格	65
	承 認	65

(7) 予防接種

表 1 6 定期予防接種実施状況 (平成 2 6 年度)

区 分	名 称	接種者数
B 類疾病	高齢者インフルエンザ	43, 260
	高齢者肺炎球菌感染症	7, 435

4 保健師活動

保健師活動は、看護を基盤とする公衆衛生看護活動であり、地域住民が自らの健康について考え、個人や地域における健康のレベルアップが図られるように支援する活動である。

様々な健康状態にある個人、家族、集団に対して、健康相談、健康教育、家庭訪問、健康診査等の具体的方法を用いて働きかけを行うとともに、必要に応じて関係機関との調整を行っている。平成26年度の主な活動状況は、次のとおりである。

(1) 健康相談

健康上の問題を抱えている市民に対し、健康相談を行っており、近年は精神や認知症に関する相談が増えている。

表1 健康相談受付状況

区分	年度	母子	成人老人	感染症	精神	認知症	難病	計
来所相談	平成24年度	461	1,598	38	493	14	63	2,667
	平成25年度	143	691	75	488	16	91	1,504
	平成26年度	189	1,145	25	734	21	102	2,216
電話相談	平成24年度	2,530	347	510	860	24	153	4,424
	平成25年度	1,881	307	498	998	42	82	3,808
	平成26年度	1,417	184	392	1,020	137	118	3,268

(注) 保健福祉部健康増進課・高齢福祉課・障がい保健福祉課、子ども未来部母子保健課の実績を含む。

(2) 健康教育

① 健康教室

疾病の予防および健康増進を目的に、母子および成人・老人を対象に、各種教室を総合保健センター、総合福祉センター等で開催し、必要な知識の普及を図っている。

② 講師派遣

地域住民組織や事業所、官公庁等からの依頼により講師を派遣し、健康に関する講座等を開催している。

表2 健康教育実施状況(平成26年度)

区分	総数	テーマ内訳								
		感染症	精神保健	認知症	難病	母子	成人・老人	栄養・健康増進		
回数	485	11	6	27	3	57	165	216		
参加人数	16,525	245	199	756	147	3,950	3,134	8,094		
(再)講師派遣先	地域住民組織	回数	202	11	-	3	-	36	86	66
		参加数	8,461	245	-	75	-	3,040	1,776	3,325
	官公庁	回数	7	-	2	-	-	-	-	5
		参加数	235	-	50	-	-	-	-	185
	事業所	回数	15	-	4	-	-	-	-	11
		参加数	613	-	149	-	-	-	-	464
	その他	回数	48	-	-	21	3	2	22	-
		参加数	728	-	-	262	147	48	271	-
	講師派遣合計	回数	272	11	6	24	3	38	108	82
		参加数	10,037	245	199	337	147	3,088	2,047	3,974

(注) 保健福祉部健康増進課・高齢福祉課・障がい保健福祉課、子ども未来部母子保健課の実績を含む。

(3) 家庭訪問

家庭訪問指導は、在宅療養者の生活の場において、個人または家族の健康問題にかかわる支援であり、母子をはじめ、在宅寝たきり者や介護者の保健指導を関係機関と連携協力し行っている。

表3 家庭訪問指導状況(平成26年度)

区分	総数		感染症		結核		精神障がい		心身障がい	
	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数
合計	2,128	3,006	10	12	49	154	231	456	142	182

区分	生活習慣病		特定疾患		その他の疾患		家族計画		妊産婦	
	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数
合計	62	103	47	164	24	44	-	-	600	676

区分	乳児						幼児			
			障がい児(再掲)		未熟児(再掲)				障がい児(再掲)	
	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数	実数	延数
合計	580	643	6	7	139	148	377	565	92	123

区分	災害対策		その他	
	実数	延数	実数	延数
合計	-	-	6	7

(注) 障がい児は、就学前の乳幼児。

保健福祉部健康増進課・高齢福祉課・障がい保健福祉課、子ども未来部母子保健課の実績を含む。

(4) 健康診査

乳児から老人までを対象に各種健康診査を行っており、乳幼児には心身ともに健康な発育をしていけるように母子への支援を、また、成人、高齢者には各自が健康状態を把握し、生活習慣をふりかえる機会になることを目的に実施しており、保健師は保健指導を担当している。また、健診結果に応じて、家庭訪問、健康教育等による事後指導を行っている。

5 夜間急病センター

夜間の急病患者の診療を行い、市民の健康保持を図ることを目的として、夜間急病診療事業を実施するために、昭和51年6月、旧保健所庁舎（五稜郭町16番1号）内に函館市夜間急病センターを設置、昭和55年10月に白鳥町13番32号に移転し、設置当初から函館市医師会により運営されていた（公設民営）。

平成20年12月1日に、函館市総合保健センター2階に移転するとともに、指定管理者制度を導入し、函館市医師会を指定管理者として管理運営されている。

表1 疾患別利用者および二次病院転送者状況

区 分	急病センター利用者の科目内訳				二次病院への転送者数
	内科	小児科	外科	計	
平成24年度	9,813	5,746	4,189	19,748	670
平成25年度	9,505	5,909	4,105	19,519	574
平成26年度	9,528	5,765	4,164	19,457	639
上気道炎	3,062	1,975	14	5,051	22
インフルエンザ	784	529	2	1,315	2
気管支炎	266	643	-	909	6
熱性けいれん	4	27	-	31	2
喘息様気管支炎	1	121	-	122	2
気管支喘息	131	182	-	313	15
肺炎	32	17	-	49	21
伝染性疾患(風疹・麻疹等)	10	136	-	146	1
消化不良症	146	189	-	335	1
急性胃腸炎	1,898	1,073	3	2,974	31
胃・十二指腸潰瘍	42	-	-	42	2
肝・胆・すい疾患	29	-	-	29	10
急性腹症	133	9	-	142	56
心疾患	228	2	-	230	57
高血圧症	373	-	-	373	13
低血圧症	9	-	-	9	-
脳血管障がい	42	-	-	42	30
尿路疾患	306	21	4	331	15
神経疾患	491	27	-	518	10
じんましん	542	345	2	889	9
虫垂炎	10	2	2	14	10
中毒	5	1	-	6	1
外傷	12	8	2,617	2,637	197
交通事故	-	-	192	192	3
熱傷	1	-	171	172	-
皮膚疾患	175	103	466	744	13
耳鼻科疾患	104	180	33	317	4
産婦人科疾患	5	3	-	8	-
歯痛	49	16	10	75	1
その他	638	156	648	1,442	105

表2 曜日別利用者状況(平成26年度)

区 分		平 日	土 曜 日	日 曜 日	祝 日	合 計
開 設 日 数		239日	52日	53日	21日	365日
利用者数	総 数	10,156人	3,829人	3,595人	1,877人	19,457人
	1日平均	42.5人	73.6人	67.8人	89.4人	53.3人

表3 受付時間帯別・年齢別・救急度別利用者状況(平成26年度)

区 分		利 用 者 数		構成比率 (%)
		総 数	1日平均	
受付時間帯別	19時30分～	5,975	16.4	30.7
	20時～	5,073	13.9	26.1
	21時～	3,895	10.7	20.0
	22時～	2,274	6.2	11.7
	23時～	1,865	5.1	9.6
	0時～	375	1.0	1.9
年 齢 別	1歳未満	681	1.9	3.5
	1～5歳	3,586	9.8	18.4
	6～14歳	2,672	7.3	13.7
	15～59歳	8,827	24.2	45.4
	60歳以上	3,691	10.1	19.0
救急・非救急の 医師判断	救 急 患 者	13,051	35.8	67.1
	明日でも良かった患者	2,914	8.0	15.0
	時間内に受診すべき患者	2,598	7.1	13.3
	電話相談で良かった患者	77	0.2	0.4
	そ の 他	817	2.2	4.2

6 実習および研修の受け入れ

(1) 実習指導

表1 学生実習状況(平成26年度)

区 分	学校名	実習人員
保 健 師	北海道大学大学院保健科学院保健科学専攻	1名
	北海道医療大学看護福祉学部	6名
看 護 師	市立函館病院高等看護学院	70名
	函館市医師会看護専門学校	40名
	函館看護専門学校	45名
	函館厚生院看護専門学校	39名
	北海道大学医学部保健学科	6名
薬 剤 師	北海道薬科大学薬学部薬学科	2名